

学校だより



# みなみたなか

平成24年9月3日  
練馬区立南田中小学校  
校長 榎谷 雅弘

## 惻隱の心・惻隱の情を育ていじめ根絶を目指したい

校長 榎谷 雅弘

「惻隱の情」という言葉はあまり使われなくなりましたが、今の子どもたちにとってとっても大切な言葉だと思います。

孟子は、人の道として最も大切な孔子の言う「仁」を噛みくだいて、他人の苦痛や不幸、苦しみを自分の身にふりかかったもののように同情したり共感する思いやりの心であると説いています。また、いたましく同情する心ですが、相手の立場に立って、ものごとを感じとるという感覚上の自然の性格の発露だとも言われています。

新渡戸稲造は、「武士道」の中で、武士道的美徳を敗者への共感、劣者への同情、弱者への愛情と書いています。武士道が常に目指して来たものは、「弱者をいたわる思いやりの心」だといわれています。正に「惻隱の情」にあたるものです。

「惻隱の心は仁の端（はじめ）なり」という諺があります。その意味するところは、他人のことをいたましく思って同情する心は、やがては人の最高の徳である仁に通ずる。人間の心のなかには、もともと人に同情するような気持ちが自然に備わっているものだから、自然に従うことによって徳に近づくことができるのだ。というものです。

このような惻隱の心・惻隱の情を一人一人の児童にしっかりと育てていくことがいじめの根絶に繋がるのではないかと考えています。

具体的には、次の通り、保護者の皆様と連携しながら対応して参りますので、今後ともご支援やご協力よろしくお願いいたします。

夏休み前にいじめに関するアンケート調査を全校児童を対象に実施しましたが、その結果、友達からいやなことを言われたことがあるという2名の児童の回答がありました。しかし、幸い現在いじめは本校では発生していません。

しかし、「どんな学校でもいじめは起こりうる」という認識に立ち、その危機意識を持って、いじめの未然防止やその解決に万全を期して指導に当たって参ります。人ごとではなく、当事者意識をもって、いじめの根絶・自殺の予防に全力を尽くすために以下のことを全職員で実践していきます。

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 担任           <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康観察の充実</li> <li>・望ましい人間関係づくり</li> <li>・教室環境づくり</li> <li>・魅力ある授業づくり</li> <li>・保護者との関係づくり</li> <li>・他教員との情報連携づくり</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全教職員           <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童への声かけの徹底</li> <li>・報告・連絡・相談による情報交換</li> <li>・具体的事象の教訓化・共通実践</li> <li>・人権教育の推進・充実</li> <li>・地域・保護者との関係づくり</li> <li>・一致団結できる組織づくり</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童への指導           <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめを許さない</li> <li>・みんなのために行動する</li> <li>・困ったときは、助け合う</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を思いやる言葉遣いをする</li> <li>・他に流されず、意志決定をする</li> <li>・解決するために知恵を出し合う</li> </ul>

本日、「いじめの相談窓口」というプリントを配布しました。誰にも相談できない場合は、電話をすれば何でも相談に乗ってくれることを学校でも指導いたしました。



7月27日（金）、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された、「全日本小学校学校図書館研究会 第30回夏季研究大会」で、本校の実践について、永村真理教諭・清水達郎教諭・相馬恵教諭が発表をいたしました。

講師の榎山 敏郎（国立教育政策研究所学力調査官）先生始め多くの方々から非常に高い評価を頂き、研究推進の大きな励みとなりました。

← 本校の実践を発表する永村教諭・清水教諭・相馬教諭